第三節　創立七十周年記念式典

一　記念式典の概要と記念事業

昭和十八年十一月二十三日の新嘗祭の良き日に、本校中庭の奉安殿、忠魂碑を前にして、創立七十周年記念式典が決戦下にもかかわらず盛大に挙行された。そして、池田校長は式辭で「教育は國家興隆の根基に培うもので一日も忽にすべきでなく、特に決戦下の初等普通教育こそ、その使命は重大なものである」と述べ、さらに「創立當時から『通明』を以て校名とし、『至誠良く神明に通ず』との一語は我校職員、兒童の胸底深く臓され、只一筋に君國に仕へ奉るを本校教育の本領とし、校風も樹立されてきている。この歴史と傳統とをふまえ、決戦下の學童たるの本領を遺憾なく發揮し、一は以て君國に報い奉り、一は以て父母と祖先に感謝せよ」と記念式典を挙行する喜びと、決戦下の学童の自覚を促している。以下、七十周年記念資料をみることにしよう。

通明國民學校創立七十周年記念事業

1　記念式典　昭和十八年十一月二十三日新嘗祭　快晴

記念式　午前九時　敬老会　午前十時半　音樂会　午後一時

一　敬　禮　一　敬　禮　一　敬　禮

一　開式ノ辭　一　開會ノ辭　一　宮城遙拜

一　宮城遙拜　一　宮城遙拜　一　君ケ代奉唱

一　君ケ代奉唱　一　君ケ代奉唱　一　祈　念

一　勅語奉讀　一　祈　念　一　挨　拶

一　祈　念　一　挨　拶　。喇叭鼓隊披露

一　式　辭　一　祝　辭　。音　樂

一　勤續職員表彰　一　謝　辭　一　校歌齊唱

一　感謝狀贈呈　一　晝　餐　一　敬　禮

一　祝　辭　一　海行かば斉唱

一　謝　辭　一　萬歳奉唱

一　校歌齊唱　一　閉會の辭

一　閉式ノ辭　一　敬　禮

一　敬　禮

2　記念事業

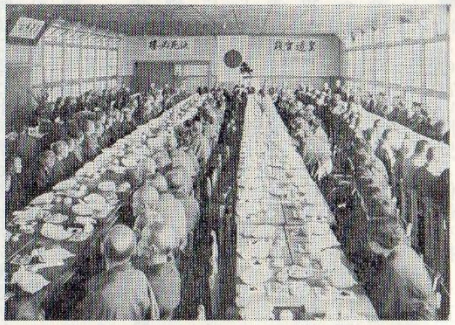
㈠　學校沿革史編纂

。學校沿革史資料集録

。學校沿革表　創立五十年記念に編纂せし學校沿革表へ更に二十年間の沿革表を追補し百五十部印刷の上學校職員町内外有識者に贈呈し、更に永久に保存す。

。學校沿革史概要　創立以来七十年間の學校沿革概要を印刷し記念式當日の来賓、町内有識者、學校職員に贈呈す。

㈡　學校要覧作成……通明國民學校の沿革、内容一般、更に兒童生活の指導等について知らしむると共に家庭との聯絡を緊密にせんとし、記念出版とする……信濃毎日新聞社てに千五十部印刷製本



パン２個リンゴ通明漫頭を前にしての敬老会

㈢　郷土先人ノ顕彰

郷土先人即ち故人の先覺者を顕彰せんとするにあり、七十余人の郷土の先覺者を得て顕彰し、兒童教育の範とし、郷土史料として永久に傳えんとす。

㈣　忠靈室完備　戦死者名簿作成

明治十年西南の役以後の篠ノ井町出身戦死者五十五人の名簿を作成し、戦死者の戦歴、閲歴を記載せり、忠靈室安置の宮造、供物用具一切及幕は篠ノ井町浅井氏の特志寄附により全く完備をせり。

㈤　映寫機、擴聲機の新設

映寫機は昭和十八年四月以降資材提供なき限り製造禁止にて入手不可能の処、町内有力者の奔走と、製造會社光音工業株式會社の特別好意により設備の運びに至る。

擴聲機も種々困難、支障に逢着したるも各方面、特に製造會社東海無線株式會社の特別な計ひにより、校内各教室、特別室及校外各部に昭和十八年内に完備の予定となる。

㈥　郷土出身成功者名簿作成

㈦　校庭擴張

㈧　校舎の増築

㈨　育英資金の造成

㈩　プールの新設

既に町當局、町内有力者の了解、賛助を得て、着々準備を進め、機を見て実現を期す。

3　經　費

㈠　兒童祝品一八〇円　㈡　記念品費八〇円　㈢　晝餐會五〇円　㈣　音樂會八〇円　㈤　沿革史五〇円　㈥　學校要覧一五〇円　㈦　先人顕彰五〇円　㈧　郷土成功者名簿　戦死者名簿七〇円　㈨　雑費三〇円　計金七四〇円

。映寫機二七二〇円　。擴聲器四五〇〇円